

令和6年度 第1回向日市社会教育委員の会議	
日 時	令和6年5月22日（水）午前10時～同11時25分
場 所	永守重信市民会館 第1会議室
出席委員	植田委員、河村委員、定金委員、高畑委員、田邊委員、 中西委員、中本委員、横田委員、淀野委員
欠席委員	池田委員、田賀委員、吉岡委員
事 務 局	山本教育長、水上教育部長、長谷川教育部副部長兼生涯学習課長、浦元主席課長、 芦田担当課長、小田中央公民館長、塚本図書館長、里見文化資料館担当課長
内 容	1 令和6年度社会教育関係事業計画について 2 令和6年度社会教育委員関係の事業予定について
委員	【開会】 ○教育長あいさつ ○委員長あいさつ ○事務局職員紹介 ○議題1 令和6年度社会教育関係事業計画について —生涯学習課、中央公民館、図書館、文化資料館、天文館、文教課（文化財係） 事業について説明— 【生涯学習課事業について】 地域学校協働活動推進事業はこれまでから各小中学校に配置されているが、コミュニティ・スクールの導入については、現在どうなっているか。
担当課長	コミュニティ・スクールについても、現在全校で設置している。
委員	人権研修会第2回目の内容については、今後PTA連絡協議会と協議するとのことだが、性の多様性などについては、過去取り上げたことはあるか。また向日市は、パートナーシップ宣誓制度を導入していることや、京都市が行っている性の多様性ネットワークに参画しているので、このようなテーマを実施してみてはと思う。

生涯学習課員	令和4年度の第2回目に「性と生を考える ～性差別と性的マイノリティ差別の交差点～」と題して、講演会を実施した。
委員	昨年4月に子ども基本法が施行されたことや、ヤングケアラーも昨今、問題となっている。子どもの人権についても研修テーマとして検討していただきたい。
委員	昨年度、家庭教育講座の参加者が少ないと指摘した。今年は、子育て世代とともに、共催団体である青少年健全育成連絡協議会に所属されている方にも周知されるということで、参加者の増加につなげてほしい。 またスポーツランドは、実施場所がないという理由で、今回も見合わせとなっているが、実施場所を工夫するなど、実施できないのか。 加えて、キッズスポーツチャレンジが、昨年度の事業計画にはあったが、今年度は実施しないのか。
担当課長	スポーツランドについては、向日市まつりの場で、まつりに来られた方を対象にスポーツの啓発を目的として開催していたので、まつりが中止になったため実施ができていない。場所を変えて行う場合は、別の事業として開催することになる。 キッズスポーツチャレンジは、向日市スポーツ文化協会と企業の共催で開催を予定していたが、長引くコロナ禍の影響で、実施予定だった企業が撤退したこと、また、変わる業者もなく実施を見送った。 【中央公民館事業について】
委員	中央公民館は、現在建物としての実態がない。本日の会場である市民会館に中央公民館という看板がつけられないのは前回の会議で聞いたが、何か工夫して是正や、整理ができないか。例えば、向日市公民館機構とすることで建物のイメージより、組織としての意味合いを持たせてはどうか。
教育部副部長	委員のおっしゃるとおり、建物としては確かに存在しないが、組織としては教育委員会内の所属として存在する。その所属を中央公民館として表している。
委員	組織名としても、中央公民館とするのは違和感がある。
委員	中央公民館のハード面と所属や組織といったソフト面での違いについて何度もこの場で取り上げてきた。この違いによる世間の混乱は新聞などを見ているもなく、区分けは出来ていると感じる。法律上でも公民館法に規定されているものとされていない一般のものとして区分けされている。一旦整理されていると認識している。
委員	市民や事業に参加する人の混乱を招かないように表記、発信することが第一に考えねばならないことである。例えば、昨年度発行された生涯学習情報紙を一例に上げると、文化資料館のカテゴリーをみると、場所は文化資料館で開催すると理解さ

	れる。同様に、中央公民館のカテゴリーを見た場合、中央公民館が存在すると市民の方は考えると思う。記事を確認すると、場所は市民会館となっている。このあたりのわかりにくさを解消できるように情報発信することが必要である。
委員	いつも様々な内容の事業をしているが、市民の要望を取り入れて企画しているのか。
中央公民館長	毎回講座実施後に、アンケートを実施し聴講した感想や次回に求める講座内容を自由に記入いただき、それらを講座選定の際に参考にしている。
委員	市民教養講座で「自分のお金は自分で守る～老後生活を守るために～」と、別にスマホ講座を開催するとあるが、最近スマートフォンを介した詐欺被害を多く聞く。消費生活の内容になるかもしれないが、スマートフォンで起きている被害事例などを紹介し、老後のお金を守るように啓発していただきたい。
中央公民館長	これからそれぞれの講座を開催するが、ご指摘いただいた内容に触れて、市民への啓発を行いたい。 【図書館事業について】
委員	予算に関連することなので、あまり要求はできないが、専門書のある程度充実させていただきたい。所蔵場所の余裕がないことや、やはり一般向けの図書を多く購入されるのは理解できるが、電子図書の普及により、紙の中古本は古本屋などでは値下がりしているので、有効に活用し専門書を購入していただきたい。
図書館長	専門的な知識を図書館に期待されることもあるので、バランス良く蔵書できるように今後検討していきたい。 【天文館事業について】
委員	いつ行っても観覧人数が少ない。市町村立で天文館施設を持っているところは少ないので、2市1町はじめ、京都市などの学校にも催しや事業を情報提供し、有効的に天文館を活用できるように検討していただきたい。職員たちは一昨年、去年あたりから、館内の展示物などに工夫をこらしているのがわかる。更に人を呼び、活気ある天文館になるように願っている。
教育部副部長	向日市外の学校へも周知していると聞いているが、今後とも活気のある天文館にするため、職員の手を借りながら取り組んでいきたいと思う。

委員	3点お聞きしたい。観望会事業だが、今年度は中秋の名月観望会は実施しないのか。2点目は、天文講座にある出前講座に記載のある「月見井」とはどういったものなのか。またこの出前講座は、中学校では実施しないのか。
教育部副部長	中秋の名月観望会を行うかどうかは現在未定である。また、「月見井」だが、月、地球、太陽の位置関係をカップうどんの容器を使って示し、月の満ち欠けなどを表現する手作りの教材であり、小学生対象としている。
委員	「月の満ち欠け」は小学生の学習内容であり、了解した。中学生向けにも出前講座が設定されると更によいと思う。 【その他質疑】
委員	文化財関係として、昔向日市にあった寶菩提院について提案したい。昨年度の社会教育委員の研修会でも現在は京都市西京区にある寺院を訪ね国宝の仏像を見学したが、この寺院に元あった向日市の土地を提供し、呼び戻す事業を展開していただきたい。あわせて近隣の長岡宮跡大内裏遺構を整備し、文化財としての価値を創出することで、多くの方に知っていただける大きな観光資源になりえる。ぜひ、検討していただきたい。
委員	同感である。見学で仏像のお顔を拝見したが、国宝の中でも一級クラスだと思う。せっきくの文化財資源を更に広報し、周知していただきたい。
委員	事業計画とは関係ないが、学校教育現場での人権教育の現状についておききしたい。最近、教育現場で、同和問題、同和教育があまり行われていないと耳にする。資料として届いた、京都府教育委員会発行の「学校の重点」と向日市教育委員会発行の「向日市の教育」を見比べると、「向日市の教育」には、「同和問題（部落差別）を人権問題の重要な柱として位置づけ」とあるが、「学校の重点」には、「人権教育の推進」となっており、同和教育や同和問題といった文言が出てこない。これは京都府教委の観点なのか、それとも昨今の人権学習においては、同和教育を扱わなくなっているのか、実態を尋ねたい。
委員	学校の現場からお答えしたい。まず京都府教育委員会では人権学習における重要な柱として、現在も同和教育を位置づけている。実際、各小中学校において部落差別を扱う授業は必ずある。小学生では6年生の歴史学習として、室町時代都の庭園を造る人たちが差別を受けていた、また江戸時代の身分制度、水平社宣言、日本国憲法に触れる機会がある。「学校の重点」のほか、京都府教育委員会からは毎年、「人権教育を推進するために」という冊子が発行されており、先ほど説明したとおり、同和教育は人権学習の重要な柱であるとこれまでからされており、これを基に教務には浸透させている。また教員に対して行っている人権学習においても、これまで

委員	の学習成果や学習の手法などを引き継いでいるところである。向日市においても大切に取り組んでいる。 中学校の取組について特色といえる２点を説明させていただきたい。まず、１点目だが、「部落差別解消法」を教材として取り扱い、２，３年生で学習している。その中には、「未だに残る」というのがキーワードになっていて、どんな問題が残っているのか、事例を挙げてしっかりと学ぶ機会を持っている。２点目は、すごく身近な問題ではないという意識を教職員が持たないように、全ての生徒の進路保障を行うことが毎年の課題であると話している。生徒の進路を実現することで生徒の人権を保障していくことを入学当初から行っている。 議題２ 令和６年度社会教育関係事業の予定について －事業予定について説明－ 【閉 会】
----	---